

第 2 回 鎌倉市地域拠点校選定委員会 議事要旨

1. 開催日時

平成 28 年 11 月 14 日（月）9 時 00 分から 11 時 00 分

2. 開催場所

鎌倉市役所本庁舎 2 階 全員協議会室

3. 出席者等

【委員】

志村直愛委員長
石渡好行副委員長
伊藤甲之介委員
倉斗綾子委員（欠席）
林誠之介委員
坂本工委員
杉山恵子委員
中村正裕委員
井上全信委員
岩佐勝司委員（欠席）
齋藤彰委員（欠席）
（代理：山ノ上氏）

【事務局】

比留間彰（経営企画部長）
大隅啓一（経営企画部次長）
佐々木聡（経営企画部経営企画課担当課長）
鈴木康之（経営企画課課長補佐）
石塚智一（経営企画課公共施設再編推進担当
担当係長）
坪田慎介（経営企画課公共施設再編推進担当）

【傍聴者】

1 名

【幹事】

奈須菊夫（地域のつながり推進課長）（欠席）
廣川 正（こどもみらい課担当課長）
栗原章郎（保育課長）
瀬谷公重（青少年課長）
小宮 純（高齢者いきいき課担当課長）
八神陽介（教育部次長）
朴澤徹範（教育総務課担当課長）
濱本正行（学校施設課長）
菊池 隆（中央図書館長）

4. 次第

- 1 開会
- 2 報告
 - (1) 前回議事録について
 - (2) 鎌倉市内（玉縄地域）の公共施設の視察結果について

(3) 学校施設と公共施設の複合化事例視察結果について

3 議題

(0) 代理出席について（当日追加）

(1) 地域拠点校選定のイメージについて

(2) 地域拠点校選定の比較条件について

4 その他

5 閉会

5. 当日追加議題

(1) 代理出席について

事務局 欠席することとなった齋藤委員より、本委員会への代理の出席者として鎌倉市民生委員児童委員の山ノ上理事の出席について事務局に相談があった。本委員会条例及び施行規則には、代理出席の規定がないが、事務局としては、学識経験を有する者ではなく、公共的団体が推薦する者であれば、代理出席者による審議は可能ではないかと考えている。代理出席について、委員の皆様にお諮りいただきたい。

志村委員長 本委員会条例施行規則第8条の規定には、その他の事項として、「規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める」こととなっている。委員の代理出席については、委員の皆さんに伺いたい。公共的団体が推薦する者であれば、代理出席可能と取扱うこととしてよろしいか。

全委員 (異議なし)

6. 報告

(1) 前回議事録について

事務局 【資料1 第1回鎌倉市地域拠点校選定委員会議事要旨（案）について説明】

志村委員長 議事録についてはよろしいか。

全委員 (異議なし)

(2) 鎌倉市内（玉縄地域）の公共施設の視察結果について

事務局 【資料2 地域拠点校選定に向けた視察（市内）について説明】

志村委員長 地域拠点校の選定に係る意見交換等については、今日の後半の議題で行うこととしたい。10月3日に実施した市内の公共施設の視察についてはよろしいか。

全委員 (異議なし)

(3) 学校施設と公共施設の複合化事例視察結果について

事務局 【資料3 学校施設と公共施設の複合化事例視察について説明】

志村委員長 10月31日に実施した学校の複合化事例の視察についてはよろしいか。

全委員 (異議なし)

7. 議題

(1) 地域拠点校選定のイメージについて

事務局 【資料 4 学校施設の複合化のイメージについて説明】

志村委員長 地域拠点校を選定するにあたって、学校の複合化のイメージについて説明があった。今の事務局からの説明や先ほど説明のあった視察の事例を含めて、議論していきたい。

まず資料の読み方から確認したい。資料 4 の 6 ページの表に掲載されているパターンのうち、右上の活動時間帯 A と右中の活動時間帯 B との違いを説明してほしい。

事務局 学校に複合化される施設の活用の仕方である。明確な分けはないが、右上のものは、複合化される施設の機能（会議室等）を学校の授業等で活用するパターンを示したもので、右中のものは住民利用以外学校では活用しないパターンを示したものである。

志村委員長 報告の中で、視察した芦原小学校と昌平童夢館の整備コストが示されていたが、単独の学校ではどのくらい掛かるのかを教えてください。鎌倉市における直近の事例を教えてください。

学校施設課長 本年度建替えが完了した大船中学校校舎の整備費は、直接の工事費用だけでも約 37 億である。

志村委員長 昌平童夢館は地下 2 階地上 6 階のビルで、屋上にグラウンドがあるような特殊な事例である。芦原小学校は特別ではなく、コストを比較すると大きな額の差はないことから、コストの面で複合化の学校整備に実現性があることを確認できる。

杉山委員 昌平童夢館の例では、既存の図書館を移転させるのではなく、新規の図書館を複合化したと聞いた。鎌倉には図書館の地域館があるが、これら既存のものを地域拠点校に複合化することになるのか。

事務局 公共施設再編計画では、各地域の図書館については、全て地域拠点校に複合化する計画である。

杉山委員 昌平童夢館のまちかど図書館は、図書館司書ではなく学校図書室司書により運営されていると聞いたが、鎌倉の図書館司書は大変レベルが高く、地域館の存在も鎌倉市の特徴であるため、そのような鎌倉の良さを残してほしいと思う。図書館は利用者の制限が少なく、図書館はコミュニティの核となる施設であるため、ある程度の機能や規模が確保されるべきである。どのくらいの規模を想定しているのか。

事務局 複合化される各機能の規模等は、整備の段階で検討されるもので、現時点では明示できるものはないが、地域拠点校に複合化される施設の規模は 2,000 m²程度と想定している。

杉山委員 老朽化が進んでいる中央図書館については、整備の計画はないのか。

- 事務局 中央図書館については、拠点となる図書館として残す計画ではあるが、具体的な整備計画は未定である。
- 杉山委員 中央図書館がどうなるのかにより、地域拠点校に入る機能が変わってしまうと思う。たとえば、鎌倉地域の拠点校には図書館の機能が入らないということもありえると思う。
- 童夢館では、学校図書室の司書に図書館をお任せしていたが、地域図書館の司書に学校図書室をお任せすることによって、レベルを確保するという取組もあっていいと思う。
- 志村委員長 他の施設との関係についても、併行して検討していく必要があるのだと思う。複合化することによって、質が下がるようでは駄目で、質を確保していくことが大事である。
- 井上委員 P T A連絡協議会において、地域拠点校の取組を周知したところ、保護者からは児童の安全について心配する声が多数あった。池田小学校の事件以降、鎌倉でも警備員を配置するようになったこともあり、安全面の確保が不可欠であると思う。
- しかし、学校と複合化する施設との動線を完全に切り離してしまうと、複合化によるメリットが生まれなくなってしまうため、メリットを生かせるような複合化の方法を模索する必要があると思う。
- 伊藤委員 特別支援学校の整備に携わった際に思ったことは、管理の難しさである。具体的には、夜間や休日の開放にあたって、子どもたちと共用する部分としない部分にシャッターをつけるにしても、実際に使っている人が考えないと使えないものになってしまうということにもなる。実際、施設の管理をどのようにするのが大きな問題となった。いつも人が訪れる学校は、いい学校であると思うが、管理運営をうまくやっていくためにも、整備にあたっては管理者による十分なシミュレーションが重要であると思う。
- 志村委員長 第一小学校の地域開放の事例が資料に掲載されているが、いつからやっているのか、どのように管理運営しているのか、また、地域開放にあたっての課題等があれば教えてほしい。
- 教育総務課担当課長 第一小学校の地域開放は、近隣にあった公民館分館の閉館を期に始まったと聞いている。貸出については学校での利用を優先しており、災害時の避難所にもなるため、緊急時には予約があっても利用を断わるなどの対応をしている。
- 志村委員長 災害時の避難については、鎌倉の場合、観光客の話もある。第一小学校の地域開放にあたっての課題等について、現場の声を拾ってもらいたい。
- 中村委員 地域拠点校の考え方について確認したい。どの施設が複合化されるのか決まっていれば教えてほしい。
- 事務局 地域拠点校には、行政センターにある図書館、学習センター、支所の地域活動支援機能、老人福祉センターや子ども会館・子どもの家が入る予定である。このほか、地域によっては、保育園が複合化される場合もある。
- 井上委員 多岐にわたる施設をひとつの施設にまとめられることのイメージがわきにく

い。この学校には図書館、別の学校には学習センターのように、施設あるいは機能ごとに複合化する学校を分けるパターンはありうるのか。

事務局

複合化する学校は各地域に1校であり、分散して複合化する計画ではない。

今後、公共施設として整備してきたハコモノやインフラの維持に多くの経費が必要となることが予想されており、地域拠点校の取組もこの財政的な課題を解決するための取組の一環である。平成27年3月に策定した公共施設再編計画に基づき、地域拠点校の取組も粛々と進める必要がある。

志村委員長

財政の課題があり、そのためにこの取組があることを広く理解してもらうことも、今後の重要な課題であると思う。市民が危機感を持つような説明をするとともに、市民にメリットがあるという説明も必要であると思う。

杉山委員

地域拠点校以外の小学校については、子ども会館、子どもの家のみが複合化されるということか。

事務局

その通りである。

志村委員長

先ほど複合化される規模の話があったが、容積率等の条件はクリアできるということの良いか。

事務局

容積率等については、次の議題で説明する。

(2) 地域拠点校選定の比較条件について

事務局

【資料5 地域拠点校選定の考え方について説明】

志村委員長

地域拠点校を選定するにあたっての評価軸等について説明があった。ただいまの事務局の説明について、いかがか。

中村委員

例えば、第一種中高層専用地域だと、学習センターのような集会室用途の整備が難しいとのことだが、これから全国的に複合化が進む中で、将来規制緩和等ルールの変更が行われるような国の動向はないのか。

事務局

用途地域の変更は難しく、現状の法規制のもとで整備していくことを前提としてほしい。学校の多くは住宅地の中に立地しており、制限が厳しい用途地域にあることが多い。

志村委員長

全国的に複合化の事例も多数でてきているが、制限が厳しい用途地域内で整備された事例もあるのではないかと思う。また、用途については、解釈の仕方次第のところもある。

事務局

将来的には法改正等があるかもしれないが、現時点では規定の中で考える必要がある。ただし、この場所が良いという意見があればそれも出してほしい。施設の用途については、使い方次第のところもあるので、どのように使うかについても議論の対象になる。

用途地域や津波浸水等の項目を挙げたが、それらの評価のウェイトが同じとは限らない。項目ごとの優先順位についても議論いただきたい。例えば、アクセスについてみると、御成中学校のように山の上にある立地をどのように評価すべきなのか等、多様な評価の仕方があると思う。

林委員

県立高校の建替えに携わったが、学校の建替えには、グラウンドに仮設校舎

を建てる例や一時的に移転するなどの例があるが、子どもたちが居ながら建替えを行うとなると、整備時のスペースを確保する必要があるため、敷地の広さは重要なポイントになると思う。

石渡副委員長 子どもたちと、地域のお年寄りとの関係が希薄になっていると思う。このような関係を改善するためにも、多世代でコミュニケーションできる機能の確保は重要であると思う。そのためにもソフト面を重視して欲しい。

坂本委員 今年度中の選定ということで、選定条件を表でやると絞り込まれると思うが、○が多いから良い、×があるからダメという単純な話ではない。○、×だけでは表せないところの検討も行うのか。

事務局 今回提示したのは、各学校の条件を整理したものである。定量的な評価とそれ以外の部分も含めた判断により評価軸毎に優先順位がつけられると思うので、そのあたりも議論いただきたい。

志村委員長 本委員会の目的は5校を選定することだが、単に選ぶだけでなく、整備に当たっての注意書き等コメントが付加されることになると思う。

杉山委員 駐車場についてどう検討されているのか教えてほしい。

事務局 評価軸のひとつである容積率等には、駐車場や施設へのアプローチを確保できるのかも含めて検討している。ただし、現在の支所と同程度を前提に検討しており、増やす想定では検討していない。

志村委員長 今後、市民に我慢してもらうところは絶対出てくる。例えば、車でなければ移動できない方以外は公共交通機関を利用してもらう等の対応も必要になってくる。駐車場の量がどうなのか、利用希望に対する充足率はどうなのか、どのように空間が活用されるのかなども含めてイメージできるものがあると容積率等の評価軸を理解しやすくなる。

定量的な評価も大事だが、定性的な評価も重要だと思う。例えば、地域コミュニティを評価に入れることはできないか。おそらく新興住宅地と古くからある市街地ではコミュニティの形成の仕方が違うと思う。私が住んでいるところでは、児童の登下校を地域の方々を見守る仕組みがあるが、そのような協力を得られるのであれば、警備員を雇うより、コストの面だけでなく、地域とのかかわりの点でより良いものになる。学校周辺の地域コミュニティのあり方も評価項目のひとつになるのではないかと思う。

杉山委員 私の住んでいる地域にも、子どもたちを地域で見守るという意識が高く、同様の取組がある。

石渡副委員長 鎌倉市では、市域全体でそのような意識は高い。

齋藤委員代理 (山ノ上氏) 大船地域ではミニ拠点に自主防災組織を作ったが、保管している物資等は、防災施設として不十分な状況である。地域拠点校を整備していくうえで、防災拠点としての機能の確保も重要であると思う。この課題の解決には、予算の問題が大きいと聞いている。

事務局 限られた予算の中ではあるが、防災については重点的に取り組む事業の一つとして進めてきている。ただし、保管物資については、消費期限があり、イニシ

ャルコストだけでなく、ランニングコストも確保する必要があるため、一度に充足できるものではない。充足していかなければならないものについては、充足していくことになる。

志村委員長 施設の複合化により、地域のコミュニケーションが密になることが考えられる。自助、共助、公助のあり方も地域拠点校の整備により変化していくのだと思う。

齋藤委員代理 (山ノ上氏) 大船地域の学習センターには4室しか会議室がなく、予約がいっぱいのため、会議室の確保も大きな課題となっている。

志村委員長 基本、現状からプラスということはないと理解している。先ほどの議論の中で、貸館機能がどこまで要るのかという話は、考え方だという気がした。我慢するわけではないが、優先順位の考え方は色々ありそうなのと、利用者が多くどこも大変そうだと思うが、その充足率によってあまり貸館を重視していくとつらくなっていくという思いがある。

そのあたりは、先ほど意見のあった防災も含めて、客観的に見ていく必要があると感じた。

中村委員 容積率等の評価を検討するにあたっては、地下の整備は想定しているのか。

事務局 地下の整備を検討するには、個別に詳細な検討が必要になる。ただし、地下の整備には、津波浸水、埋蔵文化財や整備コスト等いくつかの課題がある。

志村委員長 鎌倉には多くの観光客がいるが、その避難についてはどうするのか。

中村委員 3.11の際に、学校は修学旅行の児童・生徒や一般の帰宅困難者の避難所として開放された。今後も同様の対応が必要になる可能性が高い。

志村委員長 視察した芦原小学校では、設計者のアイデア盛り込まれ、優れたものになっていた。設計条件を作成する段階で、市民参画を経るなどの検討過程が重要となってくる。

齋藤委員代理 (山ノ上氏) 複合化された施設の運営にあたっては、担当部署を一本化することが重要だと思う。

石渡副委員長 第一小学校の多目的室の利用率を知りたい。地域拠点校を整備しても、複合化された機能が使われてないのでは意味がない。使われる施設になるようにする整備を進めていく必要がある。

志村委員長 モデルとなる整備事例をひとつ示せると、具体的に複合化されるとどうなるのか理解しやすくなると思う。

井上委員 芦原小学校では、整備直後は学校と複合化された施設を分離していたが、徐々に壁を取り払っていったということであった。鎌倉市でも段階的に一体としていくような進め方があってもいいかもしれない。

(5) その他

志村委員長
事務局

その他、事務局からなにかあるか。

今後の委員会開催予定は下記のとおりである。

第3回：平成28年12月12日（月）

第4回：平成29年1月16日（月）

第5回：平成29年3月17日（金）